

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 24 年 3 月 29 日 (2012.3.29)

【公開番号】特開 2011-2586 (P2011-2586A)

【公開日】平成 23 年 1 月 6 日 (2011.1.6)

【年通号数】公開・登録公報 2011-001

【出願番号】特願 2009-144673 (P2009-144673)

【国際特許分類】

G 1 0 K 11/162 (2006.01)

C 0 8 G 64/02 (2006.01)

C 0 8 G 64/16 (2006.01)

【 F I 】

G 1 0 K 11/16 A

C 0 8 G 64/02

C 0 8 G 64/16

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 2 月 10 日 (2012.2.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

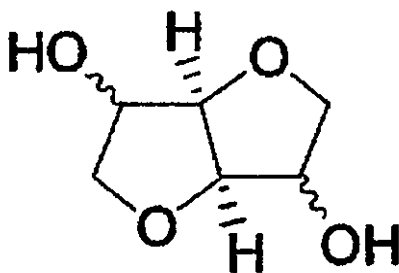
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記一般式 (1) で表されるジヒドロキシ化合物に由来する構成単位を含むポリカーボネート樹脂からなることを特徴とする遮音部材。

【化 1】



(1)

【請求項 2】

ポリカーボネート樹脂が、更に脂環式ジヒドロキシ化合物に由来する構成単位を含むものである請求項 1 に記載の遮音部材。

【請求項 3】

ポリカーボネート樹脂中の前記一般式 (1) で表されるジヒドロキシ化合物に由来する構成単位と脂環式ジヒドロキシ化合物に由来する構成単位との比率 (モル %) が、99 : 1 ~ 30 : 70 の範囲である請求項 2 に記載の遮音部材。

【請求項 4】

ポリカーボネート樹脂が、更に芳香族ジヒドロキシ化合物に由来する構成単位を含むものである請求項 1 乃至 3 にいずれかに記載の遮音部材。

【請求項 5】

ポリカーボネート樹脂中の芳香族ジヒドロキシ化合物に由来する構成単位の比率が、全ジヒドロキシ化合物に対して 5 ~ 40 モル % の範囲である請求項 4 に記載の遮音部材。

【請求項 6】

ポリカーボネート樹脂の密度が 1.30 g/cm^3 以上である請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の遮音部材。

【請求項 7】

ポリカーボネート樹脂のガラス転移温度が 80 以上である請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の遮音部材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

又、本発明におけるポリカーボネート樹脂は、密度が 1.30 g/cm^3 以上であるのが好ましく、 1.32 g/cm^3 以上であるのが特に好ましい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0075

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0075】

これらブルーイング剤の含有量は、通常、ポリカーボネート樹脂 100 重量部に対して、 $0.1 \times 10^{-4} \sim 2 \times 10^{-4}$ 重量部が好ましい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0093

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0093】

実施例 1

イソソルビド（ロケットフルーレ社製、蟻酸含有量 5 ppm）27.7 重量部（0.516 モル）に対して、1,4-シクロヘキサジメタノール（イーストマン社製）13.0 重量部（0.221 モル）、ジフェニルカーボネート（三菱化学社製）59.2 重量部（0.752 モル）、及び触媒として、炭酸セシウム（和光純薬社製） 2.21×10^{-4} 重量部（ 1.84×10^{-6} モル）を反応容器に投入し、窒素雰囲気下にて、反応の第 1 段目の工程として、加熱槽温度を 150 に加熱し、必要に応じて攪拌しながら、原料を溶解させた（約 15 分）。次いで、圧力を常圧から 13.3 kPa にし、加熱槽温度を 190 まで 1 時間で上昇させながら、発生するフェノールを反応容器外へ抜き出した。